

(資料4)

平成13年身体障害児実態調査及び 身体障害者実態調査結果の要旨

平成13年身体障害児実態調査及び身体障害者実態調査結果
の要旨（基礎的事項）

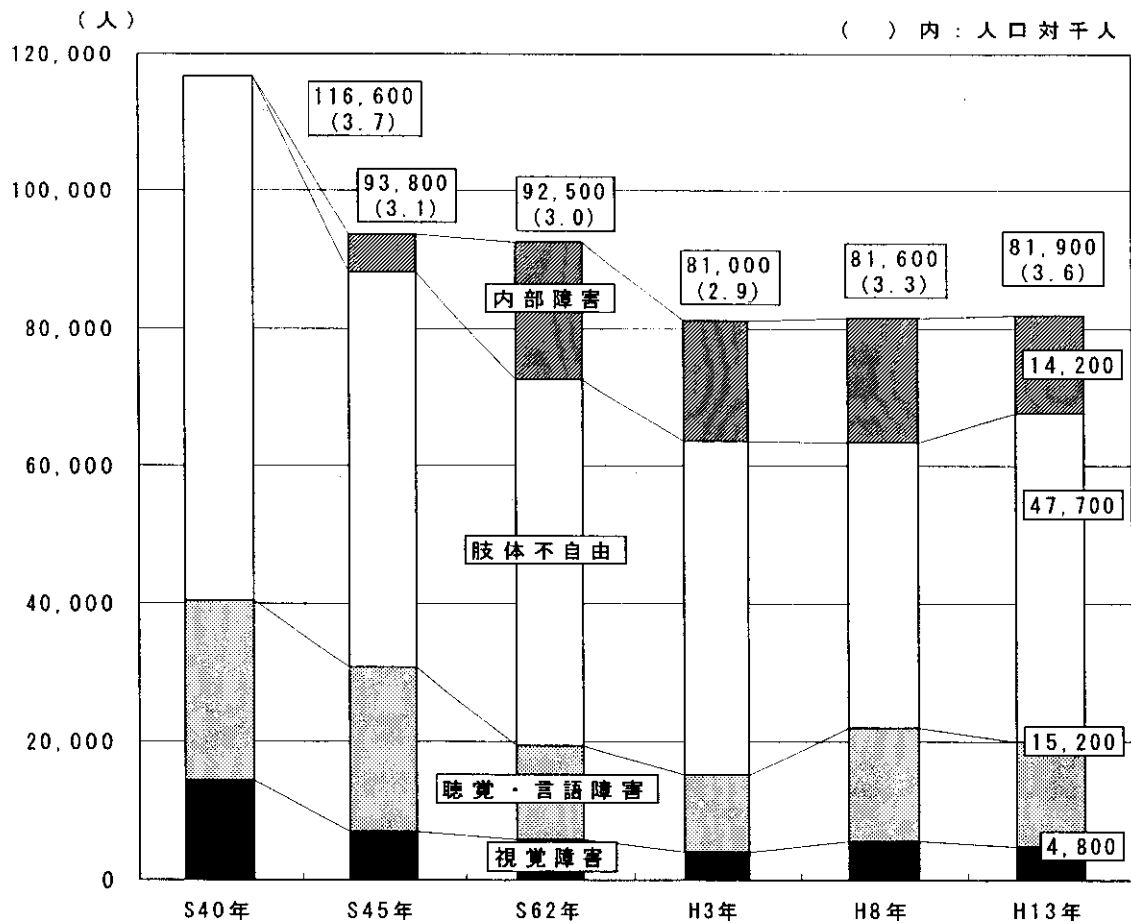
社会・援護局障害保健福祉部企画課

1 全国の在宅の身体障害児・者数 < P 3・P 4 4 >

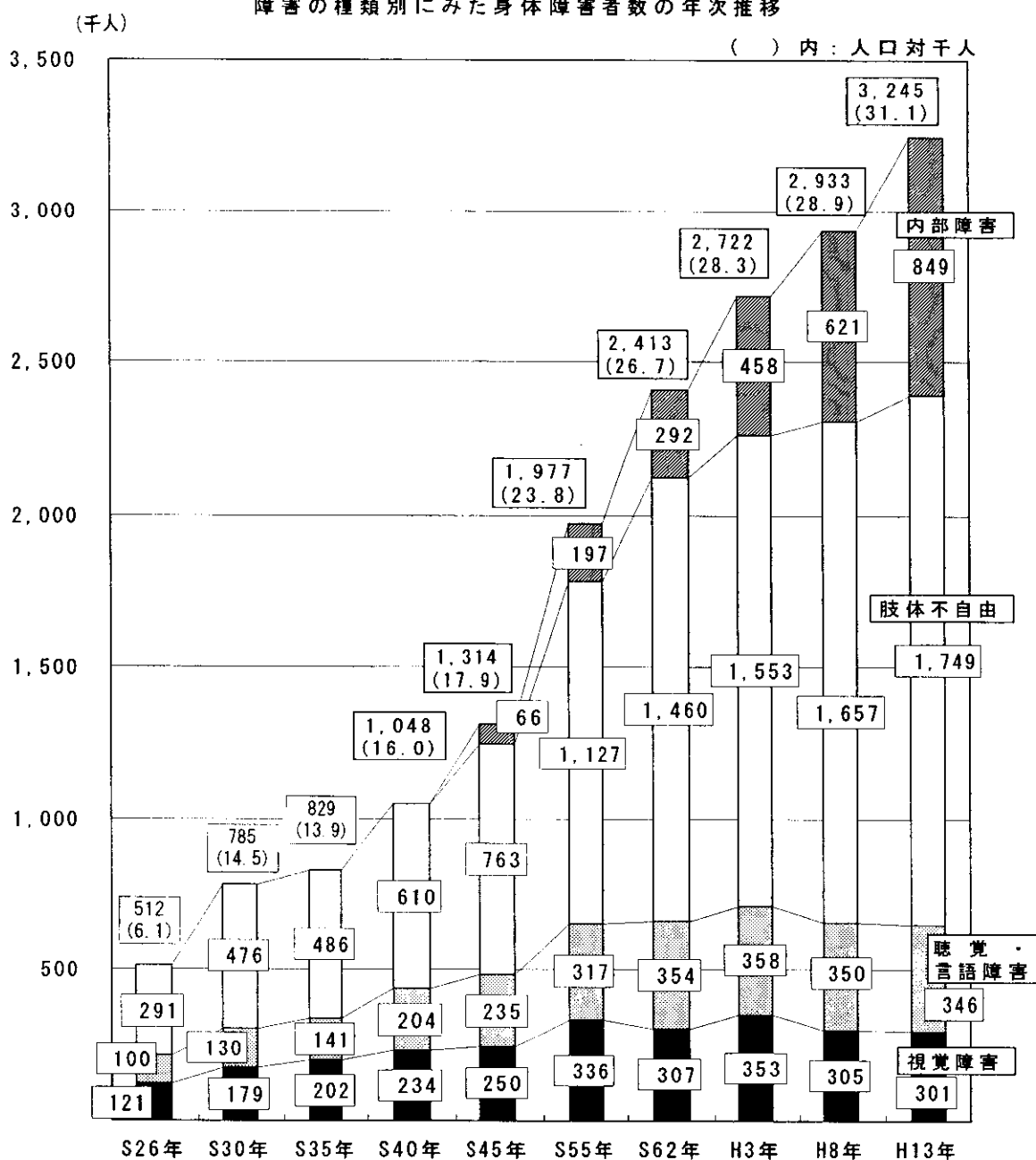
全国の在宅の身体障害児・者数の合計は推計3,326,900人であり、前回調査（平成8年）に比較して10.4%の増加

- ・ 全国の在宅の18歳未満の身体障害児数は81,900人と推計され、前回調査の81,600人と比較するとほぼ横ばいといえる。
- ・ 全国の在宅の18歳以上の身体障害者数は3,245,000人と推計され、前回調査の2,933,000人と比較すると10.6%増加している。

障害の種類別にみた身体障害児数の年次推移



障害の種類別にみた身体障害者数の年次推移



2 身体障害児・者の年齢階級別状況 < P 5 >

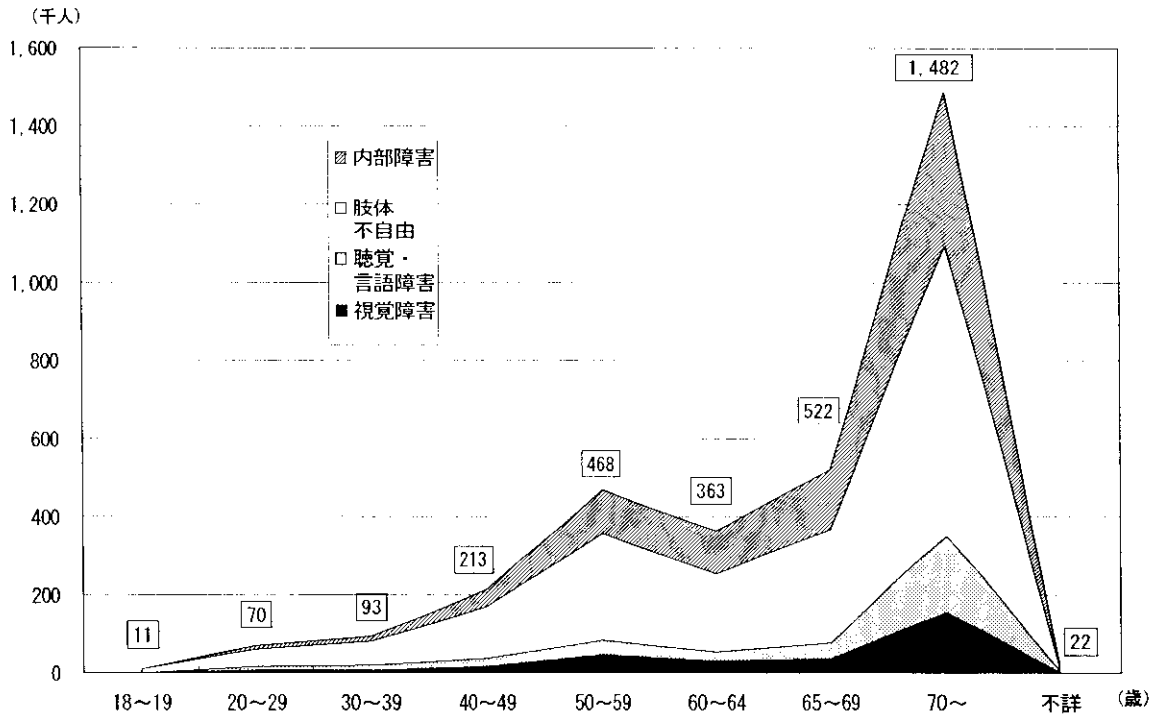
身体障害児・者の数を年齢階級別にみると、65歳以上が2,004,000人と推計され、その割合は60.2%となっており、前回調査から7.6%増加しており、高齢化の傾向がうかがえる。

身体障害児・者数の年齢階級別状況

(単位：人)

	総計	0～17歳	18～64歳	65歳以上	不詳
13年6月	3,326,900 (100.0%)	81,900 (2.5%)	1,218,000 (36.6%)	2,004,000 (60.2%)	22,000 (0.7%)
8年11月	3,014,600 (100.0%)	81,600 (2.7%)	1,246,000 (41.3%)	1,587,000 (52.6%)	99,000 (3.3%)

年齢階級別にみた身体障害者数の分布



3 身体障害の程度別状況 < P 6・P 4 6 >

身体障害児・者共に1・2級の重い障害を有するものが増えており、重度化の傾向がみられる。

- ・ 1・2級の重い障害を有する身体障害者数は1,464,000人で、身体障害者総数の45.1%を占め、前回調査と比較して1.9%増加している。
- ・ 1・2級の重い障害を有する身体障害児数は52,300人で、身体障害児総数の63.9を占め、前回調査と比較して7.6%増加している。

障害程度別にみた身体障害者数
(総数：3,245,000人)

